

網ですくいビオトープにすむ生き物を
探す子どもら＝丹波篠山市福住



神戸の児童、カエルやドジョウに歓声

篠山東雲高で生き物観察

神戸市灘区の成徳地区の親子連れら40人が、篠山東雲高校（丹波篠山市福住）で生き物観察に取り組んだ。児童らが水辺にすむ虫や両生類、魚と触れ合い、豊かな自然を満喫した。

神戸市灘区・成徳ふれあいのまちづくり協議会と、丹波篠山市・城南地区まちづくり協議会が約15年前から続ける交流事業の一環。毎年「成徳米」と名付けて城南地区で米を栽培しており、今回は午前中に田植えやサツマイモの植栽に取り組んだ。

生き物観察会は同校実習

田のビオトープで実施。2年生で自然科学部のさん(16)とさん(16)とさん(16)、卒業生のさん(18)が案内役を務めた。子どもたちは湿地を行き来して、生き物がいそうな場所を網ですくって生き物が入っていないかを確認した。アカハライモリやトン

サマガエル、水生昆虫のガムシなどを続々と発見。喜びの声を上げ、名前や特徴を高校生らに聞いていた。

希少なヘビを見つけた成徳小学校6年のさん(11)は「生き物がたくさんいて楽しい。家の近くにも田んぼや池があればいいなあ」。親戚と来ていた御

2025 年 5 月 21 日

神戸新聞

影北小学校5年のさん(10)は、初めて見た生きたドジョウに感動。「家で飼いたいくらいかわいかった」と話していた。